

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790900134		
法人名	社会福祉法人 春樹会		
事業所名	グループホーム今城の丘		
所在地	大阪府高槻市郡家本町12番24号		
自己評価作成日	平成29年4月30日	評価結果市町村受理日	平成29年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年5月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人行事の夏祭りや餅つき大会は、ケアハウス、特養、小規模特養の入居者様や家族、近隣の方々に参加され年々賑やかになってきています。日常生活ではコーラスや演芸など、様々なボランティアを活用することで地域との交流を図り、おやつレクリエーションや喫茶等を通じて小規模多機能の利用者様との交流も図っています。また面会の家族様がチェロの演奏を下さったり、レクリエーションと一緒に参加されることで入居者様と家族様、家族様同志の交流も深まってきています。外からも見える大きなリビングの窓には入居者様と工作した四季折々の作品を飾っています。散歩等で施設の前を通る近隣の方も次は何ができるのかと楽しみにいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは既に7年を経過しているが現状8人の利用者全員が施設内では車椅子を使用しておらず、立位行為を大切に支援してきており、介護度の高い方でも職員が手を添え、人間としての尊厳である”歩く”を徹底的に追求し、職員は一丸となって実践している。この取り組みが相乗効果を生み、排泄に於いても出来るだけオムツをしないケアサービスや食事に於ける完食につながっている。管理者・計画作成者の幹部クラスと職員間のコミュニケーションが良く、職員は分からない事や提案等は気軽に言える環境が築かれており、働き易い職場となっている。近隣には法人が運営する特別養護老人ホームやケアハウス等があり、同ビル内には小規模多機能型居宅介護事業が併設されており、季節ごとに恒例の夏祭り等を協同して実施し、家族や地域の住民・ボランティアが参加されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型として当施設独自の理念を作成し玄関とホームの目に付きやすい場所に掲示している。理念に沿った介護を実践できるよう、職員会議等を通して共有に努めている。	3項目の理念を玄関入口に大きく掲示し、職員は会議等で共有し、利用者1人ひとりに合った個別ケアサービスの進化を図り、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの受け入れや、散歩時等、近隣の方々への挨拶の慣行で交流を図っている。また法人で行うイベントには近隣の住民の方々も多数参加されています。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。法人が季節ごとに行う夏祭り・敬老会・クリスマス会・餅つき大会には家族や近隣住民及びボランティアが参加されている。自治会には運営推進会議への参加を呼びかけている。近くに桜見物ができる場所がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方、家族様方に、施設の事例等、認知症について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、近況報告や活動状況等の報告を行い、地域の方、家族様方の意見を聞き、サービスの向上・改善に取り組んでいる。	外部から地域包括支援センター職員・民生委員・CSW(コミュニティソーシャルワーカー)等が参加され、年6回開催している。呼びかけているが自治会代表は参加されていない。会議は双方向に話し合い、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や、地域包括センター、社会福祉協議会とは、その都度相談しながら、協働関係を図っている。	市担当や地域包括支援センターとは密に連絡しあい、情報や助言を得るように努めている。地域ケア会議にも定期的に参加し、地域の住民を皆で支え合うように議論している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・会議等でマニュアルを基に、身体拘束についての理解を深めている。当施設では原則身体拘束は行わない事を明示している。日中、玄関は施錠せず、天気の良い日は近所へ散歩に出掛けている。	身体拘束を行わないことを明示し、マニュアルを整備し、研修も定期的に行っている。グレーゾーンである抑制的な言葉等も職員の共有を図っている。玄関は施錠していない。エレベーターは暗証番号となっているが、外出希望シグナルには即対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を定期的に行い、高齢者虐待について理解を深め、日常の声掛け、接し方でも虐待に繋がる事があると学び、全職員が常に意識するように、心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度活用の実績はないが、必要に応じて、随時研修を行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定があった際は時間をかけて納得して頂くまで、分かりやすく丁寧に説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用紙と共に、受付に設置しているが、現在まで投書はない。面会時や運営推進会議で直接口頭で要望として出されている。日頃から何でも話して頂ける雰囲気作りを心掛けている。	家族が毎月、訪問されており、別室で丁寧な状況報告を説明し、要望等を聞くようにしている。運営推進会議に於いても家族は気軽に意見等が言える雰囲気になっている。ホームはチームで話し合い、希望に沿った支援を心掛け、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、各職員と意見交換を行い、行事や業務の修正・支援についての見直し等を話し合っている。また会議以外でも職員が相談しやすい雰囲気を作るよう心掛けている。	職員間や幹部クラスとのコミュニケーションは良く、互いに言い合える環境となっており、職員の異動も少ない。日々、職員は気づいた時は幹部クラスに改善案を提案しており、毎月の職員会議でも話し合い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士と顧問契約をし人事制度の見直しに取り組んでいる。常勤・非常勤職員の意見を聞き取り、より働き甲斐のある職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議での事例検討等を通じ、職員の力量に応じた研修を行えるよう努めている。また施設外研修に参加した職員は全職員に研修内容の発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、事業者連絡会、外部研修などに参加し、交流する機会を設けている。また外部研修を受けた者が内部研修を行い、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時は緊張されているので、世間話を交えながら本人が話しやすい雰囲気を作るよう心掛け、本人の希望や要望を聞いている。また前ケアマネージャー等からも意見・助言・要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と利用者様との要望の相違を可能な限り埋められるように、家族の立場に立ち、慎重に聞き取りを行い、関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談時より、サービス利用の内容や開始時期など、本人・家族・ケアマネとも連携を図り、可能な限り調整するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の介助をするだけでなく入居者の話を聞く時間を持ち、本人と家族のように深く関わることで入居者が安心して生活を送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会の際は、ゆっくりと居室で過ごしてもらい、ご本人の状況は面会時や電話、お便りで伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携を取りながら、大きな催し物の際に、家族や友人、ご近所や親戚などと交流できるよう参加の促しや声掛けをして馴染みの方々との交流の機会を作れるよう支援に努めている。	徐々に過去の友人や近隣の知人等、馴染みの人との関係は減ってきている。家族の支援で法事に参加したり、正月に実家に戻ったり、墓参り等、馴染みの場所支援が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮や、職員が橋渡しをしたりと、関係作りの構築の支援を行っている。日中は入居者同士はフロアで過ごされ、話をしたり、良い関係作りができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も現状把握の為、電話にて対応し相談にのることもある。また、退所された家族からの手紙は職員間で回覧している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向の把握に努め、入居者を中心としたケアをミーティングや申し送りで話し合い検討している。本人の言葉や仕草で得た生活歴や好みの情報を職員間で共有している。	家族や利用者とは会話を通じ、新たな過去の情報等を得ている。日々の暮らし方の希望や意向は出来るだけそれに沿った支援を行うと共に申し送り表に記入し、職員皆が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネや家族様に情報提供を依頼し、ご本人の状況の把握に努めている。また日々の関わりの中でも、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや毎日の申し送りの中で、個々の心身の変化についての意見を出し合い、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の変化や家族の要望、医師からの助言等をミーティングで話し合い集約して計画作成している。半年に1度、介護計画を見直し変化があった時も随時見直しをしている。	日々、申し送り表に利用者ごとの変化を記録し、定期的なモニタリングやサービス担当者会議を実施し、現状に合った介護計画作成につなげている。見直しは6ヶ月ごとに実施しているが入退院や急変時は即変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティング、生活記録等で情報を共有し、介護計画を職員全員で見直し、意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様から、情報の聞き取りを行い、希望や要望に沿った柔軟な対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケア会議等に参加し地域の情報を集めたり、民生委員と連携するなど、必要に応じて地域資源を活用するよう心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医を継続している。事業所の協力医療機関で受診する場合は、本人や家族の納得と同意を得て受診するようにしている。	昨年まで1人だけ、従来のかかりつけ医に受診していたが現状、全員が毎週訪問している協力医療機関の医師の往診をうけている。歯科医も毎週歯科衛生士とペアで訪問され、必要な治療や口腔ケアを受けている。皮膚科等の専門医には家族が通院支援をしている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能ホームの看護職員と介護職員の間で、申し送りや申し送りノート等で入居者の情報を確認し共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は、病院へ訪問し本人との関わりを切らさないようにしている。また病院関係者や家族と情報を共有し退院前のカンファレンスを病院で行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期について入居者・家族に希望や要望を聞いている。また、本人・家族の状況や意向を確認しながら事業者として最善の支援ができる様、各主治医と当施設間で意見交換を行っていきます。	現状、重度化や終末期に関するホームの方針は出来るだけの支援はするが看取りは行わない事を家族等に早い段階で説明しており、最期は病院に配送している。医師や家族と相談し、良い最期が迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小規模多機能ホームの看護師により研修を定期的に行い、緊急対応時に的確に動けるよう努めている。また緊急時の対応マニュアルを職員から見やすい場所に掲示し、緊急用のファイルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を定め、消防計画も作成し、年に2回避難訓練を実施しています。災害時には当施設内にて数日間は暮らせるように備蓄食を備えています。	年2回災害時の避難誘導訓練を実施している。夜間時の想定訓練は外部資料も参考にし、実施し、夜間職員がパニックにならないよう、共有を図っている。災害時の備蓄は整備している。地震時の落下物等にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員入職時に個人情報保護に関する契約書を交わしている。プライバシー保護に関する研修も定期的実施している。各入居者の誇りや尊厳を守るよう声掛けにも十分注意し、支援を行っています。	先輩である利用者を尊重した言葉使いや態度に気をつけ、プライバシーを損ねないように研修を定期的実施し、職員の共有を図っている。損ねる言葉使い等に気づいた時は互いに注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人だけでなく、家族の意見なども考慮しながら本人の望む形での支援につなげるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調、心身状況を勘案し、本人のペースに合わせて、本人の希望に沿った柔軟な支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者は皆様ご自身で服の選定をされている。身だしなみを整え、自分らしい身なりで生活できるよう支援している。本人、ご家族の希望があれば随時、訪問理美容も依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度おやつ作りをし、個々に合った出来る作業を一緒に行っている。食事は体調や義歯の具合等に応じた形態で提供し、月に一度給食委員会でメニュー等、入居者の希望を取り入れている。	朝食は献立表に基づき夜間職員が調理し、昼・夕食は隣接の特養ホームで調理されたものを提供している。御飯はホームで調理している。検食を実施し、定期的に給食委員会を開催し、出来るだけ利用者の希望に沿うように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を食事チェック表に記録し、把握に努めている。管理栄養士によるメニュー作成、食事形態のアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを職員は把握している。殆どの入居者が便意・尿意有り、トイレに行っている。誘導が必要な入居者には声掛け・見守りし、トイレで排泄できる様、支援している。	布パンツだけで過ごせる方が2人いるがホームの方針は極力オムツの使用をしないを原則とし、職員は日々、排泄パターンを把握し、トイレに誘導し、自立排泄につなげている。車椅子を使わないケアが排泄に於いても利用者1人ひとりの状況に沿った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や家族と連携を取りながら、日々の排泄パターンの把握に努め、飲食の工夫や服薬管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の体調や希望に合わせて時間をずらす等、柔軟な対応を行っています。また、冬至には柚子風呂も行っています。	個浴で週、2回の入浴が出来るように支援しているが利用者の体調や希望に沿い、時間や日にちの変更は柔軟に対応している。ゆず湯等楽しい入浴も支援している。極力シャワー浴はせず、浴槽につかることを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や個々の生活習慣に合わせて事業所のプログラムに拘らず、本人の希望に沿って休息や睡眠がとれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに現在服用している薬の説明書のコピーを管理し、目的や副作用、用法、用量等をすぐに確認できるようファイリングしている。本人の状態に著しい変化があれば家族に連絡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事カレンダーを、それぞれご自身で作成する事を、楽しみにして頂いている。また個々の好きな趣味を把握しレクリエーションで実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩で近所の神社や季節の花を見に行ったり、隣接のケアハウスの屋上に行ったりしている。また入居者から行きたい場所等を聞いた時は、家族に伝えている。	日常的に天気の良い日は近隣の散歩や買い物及び神社に出掛けている。毎年近隣に満開の桜見物が出来るところがあり、利用者の楽しみとなっている。家族の支援で外食に出掛けたり、実家に戻ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持出来る方が現在の所、いらっしゃいません。また、当施設での管理も行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在その支援の対象者はいないが、希望があれば聞き入れ支援したいと考えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの北・西の2面が大きな窓になっており、季節感のある飾りつけをしている。外の往来からも飾りが見える。トイレや浴室はこまめに掃除し常に清潔を保っている。天候や利用者の体調に合わせて室温調整もこまめにしている。	居間兼食堂の窓は大きく、近隣の桜並木等の景色が見られるようになっている。壁には塗り絵や手作り作品を飾り、利用者が居心地良く過ごせるようになっている。トイレや浴室及び廊下等の共用空間も違和感が無く、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で休んでいただいたり、リビングの座席や窓際のベンチで気の合う方と話したりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に入居者の名前と写真を掲げている。必要な物は家族と相談し居心地の良い環境作りに努めている。また、家族の協力で季節に応じた服の入れ替えを行っている。	ベッド・低いタンス・クローゼット・冷暖房設備は事業所で用意されており、思い思いの置物等を持ち込んだり、思い出の写真等を飾り、家庭的な雰囲気を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線を意識して環境整備をし、見守りにて事故なく安全に移動できるよう配慮している。		